



# 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

## はじめに

喫煙によって起こる肺疾患を、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) と言います。  
 今月はCOPDについて解説します。  
 患者数は530万人と推定されていますが、実際に病院でCOPDと診断された患者数は22万人なので、500万人が受診していないこととなります。  
 2012年のCOPDによる死亡者数は16,402人で、死亡順位は9位ですが、増加傾向にあります。COPDは20年以上の喫煙歴を経て発症する病気です。現在は男性の死亡数の方が多いですが、最近では女性の喫煙率も高くなり、また女性の方がCOPD発症リスクが高いので、今後は女性の死亡率が増加すると考えられます。

## 症状 ~しょうじょう~

COPDには、炎症によって気管支が狭くなる「気道病変タイプ」(慢性気管支炎)と、酸素と二酸化炭素の交換を行う気管支の先の肺胞が壊れる「気腫タイプ」(肺気腫)の2つがあります。  
 COPDの主な症状は、階段の上り下りなど体を動かしたときに息切れを感じたり、風邪でもないのに咳や痰が続くことですが、ありふれた症状のために見過ごされやすいので、発見の遅れにつながります。  
 COPDが進行すると少し動いただけでも息切れし、日常生活が非常に障害されます。よく、“陸で溺れるような息苦しさ”と表現されるほどです。また、肺だけでなく全身にも影響をもたらして、心・血管疾患、骨粗鬆症、糖尿病などを併発しやすいことが知られています。  
 また急性増悪<sup>きゅうせいぞうあく</sup>といって、かぜやインフルエンザの感染をきっかけに、症状が急激に悪化することがあり、これで入院した患者さんは約1割が死亡するとされます。



## 検査 ~けんさ~

肺機能検査	スパイロメーターという機械を使って肺の働きを調べると、息を吸う機能よりも、吐く機能が障害されています。
血液検査	息の出入りが少なくなるので、酸素と二酸化炭素の交換がうまくできずに動脈血中の酸素が低下します。動脈血を採血して調べる方法と、指にパルスオキシメーターと呼ばれる器具をつけ、簡易的に調べる方法があります。
画像診断	胸部 X 線撮影で肺に空気が溜まり込んだ気腫像がみられます。また肺の CT 検査を行うとより詳細に肺の病変が分ります。

## 治療 ~ちりょう~

禁煙	一度壊れた肺胞はけっして元に戻りません。しかし、治療・管理をしっかりと行うことで、呼吸機能の低下を抑えることはできます。まずは、最大の原因であるタバコを止めることが必須です。そして、薬物療法により息切れなどの症状を和らげ、歩行運動や腹式呼吸により呼吸機能を維持・増進することが重要です。
薬物療法	吸入薬による治療が主となります。 現在のところ、COPDを根本的に治す薬はありません。しかし、薬物療法によって息苦しさなどの症状を和らげて病状の悪化を防ぐことはできます。COPDの治療には以下のような薬が使われます。
【β <sub>2</sub> 刺激薬】	狭くなった気管支を広げ、呼吸を楽にする薬 セレベント <sup>®</sup> 、オンブレス <sup>®</sup> 、オーキシス <sup>®</sup>
【抗コリン薬】	胸のつまりを解消し、息切れを予防します。 スピリーバ <sup>®</sup> 、シープリ <sup>®</sup> β <sub>2</sub> 刺激薬と抗コリン薬の合剤: ウルティプロ <sup>®</sup>
【吸入ステロイド薬】	気管支の炎症を鎮める効果があります。 吸入ステロイド薬とβ <sub>2</sub> 刺激薬の合剤: アドエア <sup>®</sup> 、シムビコート <sup>®</sup>

肺機能が高度に低下している場合は、酸素吸入が必要となります。  
 在宅酸素療法といって、空気中の酸素を濃縮する機械や酸素ボンベを使って、自宅で酸素吸入を行う治療です。  
 在宅酸素療法には健康保険も適用されており、全国で約10万人が行っています。  
 しかし、ここまで症状が進行しないように早期発見・早期治療および禁煙が重要なことは言うまでもありません。